

森林総合産業特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4.5+4.3)/2=4.4$

4.4

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	素材供給量	96%	4
2	林業・林産業生産額	98%	4
3	林業・林産業従事者数	94%	4
4	林道路網密度	101%	5
5	熱エネルギー自給率	100%	5
6	電力エネルギー自給率	100%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 3 + 4 \times 3 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 6 = 4.5$

4.5

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 $(3.3+3.5+4.3)/3=3.7$

3.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.5

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.3

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.5

・全体として、ほぼ順調な進捗度合いだと評価できよう。財政支援の積極的活用や、地域独自の取組についても、活発であると評価できる。

・厳しい状況ながらも従事者が増加している。人材育成に力を入れている点は持続的な発展に繋がるものであり、注目される。林業の専門性を考えると人材確保には難しい面があるが、道内高校森林科学科との連携に期待する。場合によっては外国人材の活用を検討されてはどうか。

・公共施設の熱エネルギーの6割をバイオマスで賄うという驚くべき成果を挙げている。2019年度より稼動した北海道バイオマスエネルギーの発電事業により電力自給率がどこまで上がるのか、極めて期待が大きい。

・経営の持続には、経営内部の合理化の他に、自らの努力によって展開できるのが需要の開拓であり、木材の多用途利用の促進に努める必要がある。

・SDGsと下川町の取り組みとは親和性が高い。下川町を1つのモデルとした場合、何が成功のためのポイントであり、何がハードルであったかを整理し、他地区へ情報提供を進めていくことが望まれる。総合特区からの卒業する日も近いように思う。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.5

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.4+3.7+4.5 \times 2) \div 4 = 4.3$

4.3

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。